

第2学年図画工作科学習指導案

日 時：令和4年11月24日 公開授業2

対象学級：2年3組 35名

指 導 者：柳村 絵理子

1 題材名

パタパタ ストロー

2 内容のまとめ

第1学年及び第2学年

「A表現」(1)イ, (2)イ, [共通事項](1)ア, イ

「B鑑賞」(1)ア

3 題材の目標

- (1) ストローで動く仕組みから思い付いたものを表すときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付く。[知識]
- (2) はさみ、ペン、のりなどに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表す。[技能]
- (3) 仕組みを動かして感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考える。
[思考力、判断力、表現力等]
- (4) 仕組みを動かすなどして自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。[鑑賞]
- (5) ストローで動く仕組みから、思い付いたものを表したり、鑑賞したりする学習活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。
[学びに向かう力、人間性等]

4 題材について

- (1) 児童について
 - ア 2年生では、題材「まどからこんにちは」で、窓が開く仕組みから思い付いたものを色鉛筆等を使い、表す経験をしている。
 - イ 思いのままに描いたり、つくったりする活動を通して、自分のイメージに合わせて色を選んだり、形を考えたりすることができるようになってきている。
- (2) 題材について
 - ア 本題材では、ストローが動く仕組みから発想を広げ、思い付いたものを表す。ストローの仕組みの組み合わせによって、様々な動き方が考えられるため、自分のイメージをもちながら、楽しく表現を広げていくことができると考える。
- (3) 指導について
 - ア 本題材における言語活動の特徴等
造形活動を通して、自分や友だちの思い付いたことや、表したいと思っていることを話したり聞いたりすることで、自分の思いを確かなものにしたり、見方や感じ方を広げたりする。
 - イ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫等
「主体的な学び」を実現するために、導入段階において、活動の見通しをもたせ、イメージを膨らませる

ことができるようにする。

「対話的な学び」を実現するために、自分の思い付いたことや、表したいと思っていることを話したり聞いたりしやすいような場の設定をする。また、ロイロノートで製作過程を記録し共有する。

「深い学び」を実現するために、適宜、児童の気付きや工夫を紹介し、様々な表現への気付きを促す。また、自分の製作過程を蓄積し、自分の表現を振り返ることができるようにする。

ウ 研究の手立てとの関わり

導入・展開・振り返りのそれぞれの段階で、電子黒板や実物投影機などを使用し、作例や児童の作品を提示し気付きや工夫を共有することで、発想を広げられるようにする。また、振り返りの段階でロイロノートを活用し、作品の過程を記録していくことで、自己の変容を捉えることができるようにする。

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知① ストローで動く仕組みから思い付いたものを表すときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付いている。 技① はさみ、ペン、のりなどに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表している。	思① 形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、仕組みを動かして感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えている。 (発想や構想) 鑑① 形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、仕組みを動かすなどして自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	① ストローで動く仕組みから、思い付いたものを表したり鑑賞したりする学習活動に進んで取り組もうとしている。

6 指導と評価の計画（4時間）

時間	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・評価規準等			
			知	技	思	態
			知識	技能	発想や 構想	鑑賞
1	・ストーリーで動く仕組みをつくり、動かしながら表したいことを考える。	ICT（視覚化・共有化） ・活動の見通しをもたせるために、ストーリーで動く仕組みの作例を提示する。	○	○	○	
2 (本時)	・表したいことに合わせて、形や色、飾り方を工夫して表す。	ICT（視覚化・共有化） ・活動の見通しをもたせるために、作例を提示する。		○	◎ 観察 対話 作品	
3		ICT（視覚化・共有化） ・適宜、児童作品の気付きや工夫を全体で共有し、新たな発想や工夫の手がかりにできるようにする。	○	◎ 観察 対話 作品		◎ 観察 対話 作品 カード
4	・作品を見て、感じ取ったり考えたりしたことを伝え合いながら、自分の見方や感じ方を広げる。	ICT（視覚化・共有化） ・ロイロノートのテキストカードに感じ取ったことを記入し、共有する。	◎ 観察 対話 作品	◎ 観察 対話 作品	◎ 観察 対話 作品	◎ 観察 対話 カード

○…題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎…題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す。

7 本時の指導（2時間目／全4時間）

（1）目標

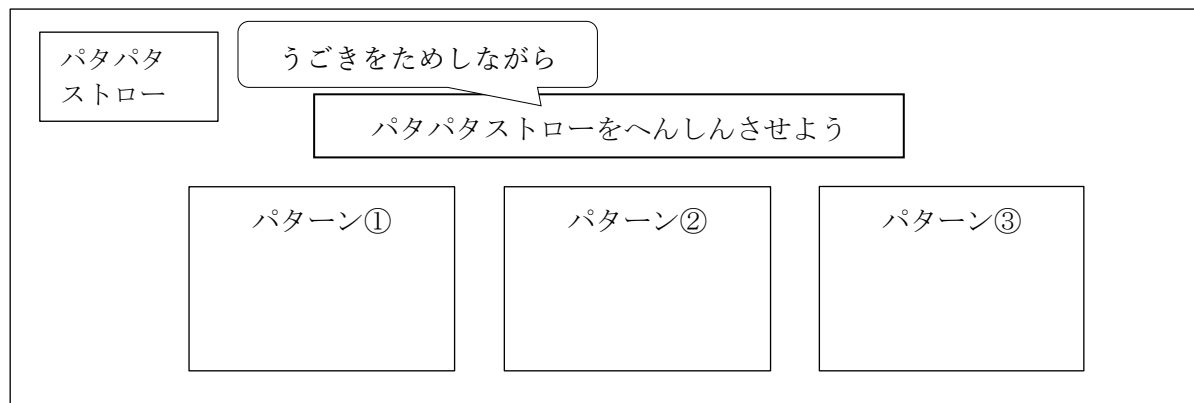
ストーリーで動く仕組みから発想を広げ、思い付いたものを表すことができる。

（2）展開

段階	学習活動	指導上の留意点（◇評価）
導入 7分	<p>1 本時の活動の見通しをもつ。</p> <p>(1) 前時の活動を想起する。</p> <p>(2) 動きを確かめながら、想像を広げる。</p> <p>ICT（視覚化・共有化）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までにつくったストーリーで動く仕組みを振り返りながら、面白さに気付くことができるようにする。 ・作例を基に想像したことを共有することで、活動の見通しをもてるようにする。
	<p>うごきをたしかめながら</p> <p>パタパタストーリーをへんしんさせよう</p>	
展開 28分	<p>2 表現活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のつくったパタパタストーリーの動きから想像を広げる。 ・形や色，飾り方を工夫して表す。 <p>ICT（焦点化・共有化）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思いに合わせて表現を工夫している児童の作品を紹介し，イメージを広げることにつなげていく。 <p>◇【思①】（観察・対話・作品）</p> <p>ストーリーで動く仕組みから表したいことを見付け，どのように表すか考えている。</p>
振り返り 10分	<p>3 学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートで自分の作品を撮影し，記録する。 ・気付いたことや工夫したことを振り返る。 <p>ICT（視覚化・焦点化）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品を撮影し，前時と続けて記録していくことで，自己の変容を捉えられるようにする。 ・気付いたことや工夫したこと，次の時間やってみいたいことなどを振り返り，次時への意欲を高めるようにする。

(3) 板書及び電子黒板等の計画

ア 板書



イ 電子黒板

